

令和5年3月10日
東京厚生信用組合

第13回 経営諮問会議の概要について

当信用組合は、理事会の諮問機関として、外部有識者で構成される「経営諮問会議」を設置しております。

本会議は、外部有識者より経営全般について助言・提言をいただき、これを経営に反映させることにより、経営の客観性・透明性を確保し、コーポレート・ガバナンスを強化することを目的としております。

過日、「第13回経営諮問会議」を開催いたしましたので、その概要につきまして、下記のとおりご報告させていただきます。

なお、第14回会議は、令和5年7～8月頃に開催する予定です。

— 記 —

1. 日 時 令和5年2月6日（月） 15:00～16:40

2. 場 所 東京厚生信用組合 本店

3. 出席者

（経営諮問委員）（五十音順、敬称略）

鈴木 豊 （公認会計士・税理士）

傳田 純 （東京都商工会連合会 専務理事）

西岡 修 （社会福祉法人 白十字会 白十字ホーム ホーム長）

（東京厚生信用組合）

田代 智彦（理事長）

中嶋 勉（常務理事）

癸生川 徹（常勤理事・審査部長）

辻田 浩之（常勤理事・企画部長）

森尾 みゆき（常勤監事）

4. 田代理事長挨拶骨子

- ・新型コロナウイルスにつきましては、本年5月に、2類から5類に引き下げることが決定し、経済を含めてコロナ前の生活に戻ることが期待される一方、今後、ゼロゼロ融資といわれる、新型コロナウイルスにより売り上げが減った事業者向け融資の

返済が本格化することに対する経済への影響などが懸念されるところです。

- ・前回から今回に至るまでの間に、当組合は、令和元年度から令和3年度までの第三次経営強化計画が終了し、令和4年度から令和6年度までの第四次経営強化計画の期間に入っております。
- ・業績につきましては、新型コロナウイルスの影響を受け、営業活動に制限を行うなど、万全の態勢とはならない中、利益水準などについては、一定の成果をあげたものと考えております。
- ・本日は、第三次経営強化計画の総括や第四次経営強化計画の概要と進捗状況を中心にご説明させていただき、その後、委員の皆様からの忌憚のないご意見などをいただきたく存じます。

5. 当組合からの説明内容

辻田理事から、以下の議題について、資料に基づき説明した。

- ①第三次経営強化計画の総括と第四次経営強化計画の概要
- ②第四次経営強化計画の履行状況
- ③全国信用組合監査機構監査の結果及びその対応など
- ④その他

6. 会議における主な意見

出席委員の皆様から、以下のようなご意見・ご提言をいただきました。

- 人材確保について、継続して勤務してもらうためには計画的に研修含めてやっていく必要がある。
- 全体通してみれば順調に推移していると思われるが、貸出残高増加について金融機関共通の課題であり、貸出金利とのバランスをみながら業域先融資中心に推進していったら欲しい。
- 余資運用について、他金融機関では含み損等危険な状態にあると聞くが、リスクヘッジはできていたと思う。
- 職員のモチベーションにもつながるため、給料のアップについては是非行って欲しい。
- 不動産業向け貸出は、残高が時期によって上下することはあるのも理解できるが、48%の約束事は守っていただけるようお願いしたい。
- 高齢者福祉領域については、コロナの影響が大きく、東京都は当面補正予算を組みながら支援していく方針と聞いているが、5月8日以降どうなるか見通しがたかない。高齢者福祉においては、一昨年の第6波と比べて、最近の第7波以降の方がクラスターの発生が多く、東京都の予算が十分な支援となる組み方かどうか不透明で不安はある。
- 高齢者福祉事業者において、厚生信用組合の知名度はどうなっているのか。古くから事業を営んでいる法人に対してはある程度認知度があると思うが、2000年の

介護保険法成立以降に設立された法人も多く、どの程度厚生信用の知名度があるのか気にかかる。

7. 田代理事長からの回答

本日は、大変貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。今後の業務活動に活かしていきたいと思えます。

以上